

# ワケギ (ユリ科)

| 3月 | 4月  | 5月 | 6月 | 7月 | 8月     | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|-----|----|----|----|--------|----|-----|-----|-----|----|----|
|    | 収 穫 |    |    |    | 植 え つけ |    |     |     |     |    |    |

## 品 種

野性種を栽培用としたことから品種の分化はなく、早生種と、晩生種があるだけです。

## 栽 培 ポ イ ン ト

ワケギは分株力が旺盛で、葉の大きさが小さいほかはネギににっていますが、葉の基部に6～8個のラッキョウのような小さな鱗茎を作ります。

寒さには強く強健ですが、酸性土を嫌い、乾燥する所や、排水の悪い所では生育がよくありません。植えつけの1週間前に、1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて中和し、有機質に富んだ肥沃で水はけのよい土作りをします。

最初は、タネ球を買い求めて8月下旬から9月上旬にかけて、2～3球ずつ植えます。霜がおりると葉が枯れて越冬し、早春に葉が伸びてきます。5～6月になると淡紫色のかれんな花を咲かせ、やがて葉が枯れて、地下の球が休眠します。追肥は10月と3月にします。

地下部が枯れたら、根部を掘り上げて乾燥、貯蔵するとタネ球になります。株間を広くとると、2～3年は植えかえをしないで済みます。

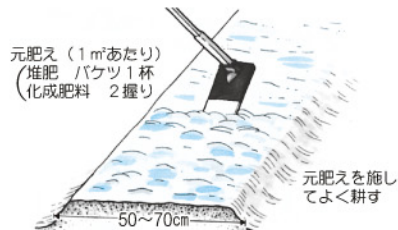
春、3～4月に、15～20cmに伸びた葉を刈りとり収穫します。また、生の鱗茎や葉もみそをつけて食べられます。

## 栄 養

ビタミン、ミネラル類を多量に含んでおり、特に、カロチン、カルシウムが豊富。また、栄養効果を高めるアリシンも含有しています。

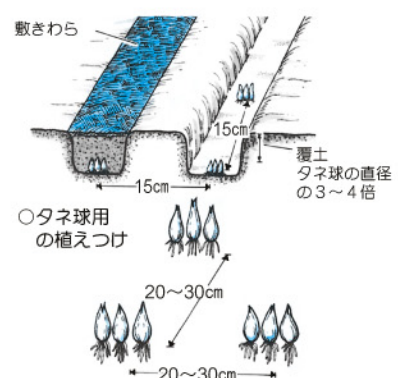
### 1 畝 作 り

苦土石灰を施した1週間後に、元肥を施してベツト畝を作る。元肥は全面にまき、よく耕して土にまぜる。



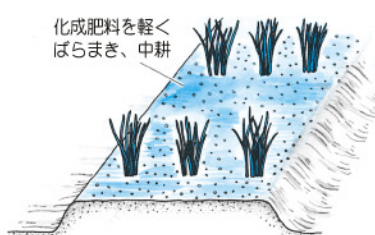
### 2 植 え つけ

元肥を施した1週間後に、タネ球の直径の3～4倍の覆土ができる深さの植え溝を、2～4条（畝幅による）作る。虫くいや病斑のあるタネ球はとり除き、2～3球ずつ結合したものを植える。覆土後は敷きわらをして、乾燥を防ぐ。



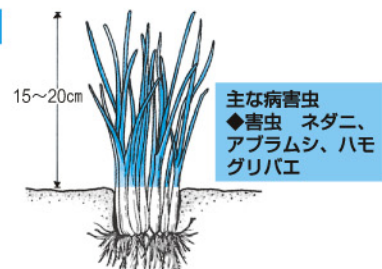
### 3 追 肥

追肥の効果は高いので、10月中旬ごろに1回（秋肥え）、3月上旬に2回目（春肥え）を施す。肥料は条間に浅く溝を切って施すか、軽くばらまき、中耕をする。



### 4 収 穫

植えつけた翌春3～5月に、葉の長さが15～20cmぐらになったら、収穫する。



### 5 タネ球の収穫・貯蔵

5～6月にとう立ちし、開花後地上部は枯れるので、掘り上げて陰干しをし、土をはらってから、風通しのよい所に、植えつけまで貯蔵する。

